

EU Indicators

発表日：2019年5月7日(火)

欧州経済指標コメント：1-3 月期ユーロ圏GDP

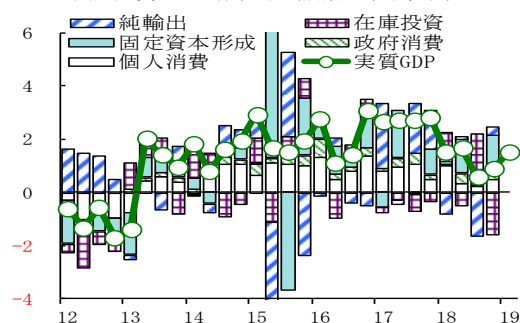
～成長再加速で一安心～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

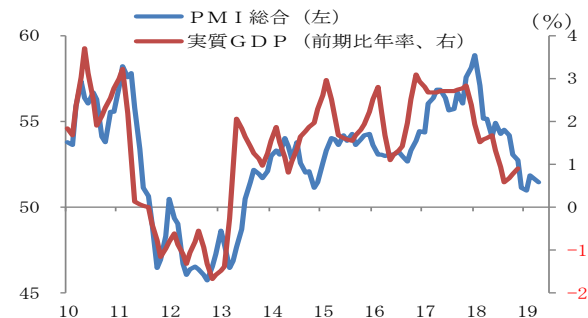
- 4月30日に発表された1-3月期のユーロ圏実質GDP成長率の一次速報値は前期比+0.4%、同年率+1.5%と、同年率1%未満にとどまった過去2四半期（昨年7-9月期が+0.6%、10-12月期が+0.9%）から再加速。国別の計数は5月15日に、需要項目別の内訳は6月6日に発表される。
- 各国統計局から発表済みの国別計数は、フランス（10-12月期：前期比+0.3%→1-3月期：同+0.3%）が前期並み、イタリア（同▲0.1%→同+0.2%）が過去2四半期のマイナス成長を脱し、スペイン（同+0.6%→同+0.7%）が僅かながら成長が加速した。ここから、ドイツが過去2四半期の停滞（7-9月期：同▲0.2%→10-12月期：同ゼロ%）から巡航速度に復帰した模様。
- 需要項目別の内訳が公表済みのフランスは、輸出の伸び悩みで外需がマイナス寄与となった一方、在庫が3四半期振りのプラス寄与に転じ、個人消費が再加速した。スペインは、個人消費がやや減速したものの、設備投資が再加速、外需がプラス寄与を維持した（輸出入ともに減少）。イタリアの詳細は不明だが、統計局によれば、外需のプラス寄与が内需のマイナス寄与を相殺した。
- 年明け以降のユーロ圏のPMIは、サービス業が底堅さを保つ一方で、製造業が業況判断の分岐点を下回る低迷が継続。同日発表された3月のユーロ圏の失業率は7.7%と、2008年8月以来の水準に低下。1-3月期の成長率は、過去数四半期の成長を下押しした特殊要因の剥落や温暖な天候に支えられた面もあるが、良好な雇用・所得環境が景気の後退局面入りを防いでいる。

■ユーロ圏：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：Eurostat

■ユーロ圏：PMI総合と実質GDP



出所：IHS Markit、Eurostat

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目 GDP	実質 GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本 投資	在庫	輸出	輸入		
17/4-6月期	4.7	2.7	(2.9)	1.8	1.5	8.9	(▲0.3)	▲0.2	4.2	5.0
17/7-9月期	4.0	2.7	(0.8)	2.0	1.8	▲0.3	(▲0.6)	▲1.9	5.3	1.4
17/10-12月期	3.9	2.8	(1.4)	0.9	1.0	4.7	(▲0.3)	▲1.5	8.8	6.1
18/1-3月期	3.0	1.5	(2.3)	1.9	0.2	0.6	(1.1)	▲0.8	▲2.4	▲0.9
18/4-6月期	3.3	1.7	(1.6)	0.7	1.7	6.4	(▲0.5)	▲0.1	4.5	4.7
18/7-9月期	2.0	0.6	(2.2)	0.4	0.2	2.0	(1.5)	▲1.6	0.8	4.7
18/10-12月期	2.3	0.9	(1.4)	0.8	1.2	2.3	(0.3)	▲0.6	▲0.4	0.8
19/1-3月期	—	1.5	—	—	—	—	—	—	—	—

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

